

セミナー参加報告

日 時；令和3年10月6日、13時30分～15時30分

場 所；調布市文化会館たづくり2階くすのきホール

主 催；調布市自治会連合協議会（安全対策委員会）

パネラー；桜ヶ丘睦会、西部飛田給自治会副会長、入間町1丁目自治会長、調布市総合防災安全課、司会者；鈴木哲司氏

講 師；日本救急救命士協会会長 鈴木哲司

参加者；大町自治会 2名（他自治会；約120名参加）

内 容

1. 台風19号襲来時の体験談

2019年に襲来した台風19号時の対応状況、日常の取り組み状況について、各パネラーが説明した。

（1）桜ヶ丘睦会（多摩川7丁目／0.5m～5m浸水地域）

①京王多摩川駅東の約120世帯の自治会で多摩川に隣接している。

②10月12日の台風上陸に向け、11日に臨時役員会を開催。

③12日の防災無線は風雨の音で聞き取れなかった。

⇒防災無線が聞き取れない場合は、同じ内容を防災フリーダイヤル0800-8000-903でガイダンス（12回線保有）を聞く事が出来る。／柳沢

④16時30分から自治会長が全会員宅を回り避難を呼びかけ。集会所に避難した会員を車で富士見台小学校にピストン搬送した。その後グリーンホールに避難したが満席でたづくりに避難するよう言われ移動したところ準備が整っていなかった。10世帯は難しなかった。

⑤困った事；避難所には水が無かった。

⑥自治会で携帯無線機を十数台購入し、役員が所持し緊急時に使用している。電波は建物等の障害物に反射を繰り返し送る地上波のため、受信状態が悪い場合がある。

⑦避難所が少ないため増やして欲しい。

【感想】多摩川氾濫のリスクが高いため、台風時の戸別訪問呼びかけ、電話が使えない事を想定した無線機の配備等リスク管理がなされていた。

（2）西部飛田給自治会（飛田給3丁目／0.5m未満浸水地域）

①飛田給駅北側、170世帯の自治会であり多摩川から離れているため、自治会としての対応はしなかった。

②要支援者との繋がりを持っている。

③台風アンケートの結果は下記の通り。

○情報入手方法；TV、インターネット

○避難した ; 70%（しなかった理由は、2階に避難、指示がなかった）

○避難先 ; 小学校（86%）、避難所、親戚

○避難手段 ; 車、徒歩

- 非常用袋準備：53%
- ④防災ケース：自治会で購入し配布（ハザード・防災マップ，地図／ゼンリン航空地図に自治会エリアが囲ってある，名簿，※1黄色リボン収納用）
- ⑤安否確認訓練：※1黄色リボンを玄関に掲示
- ⑥無線通報訓練：毎月6人の役員で実施
- ⑦非常持ち出袋：自治会で購入し会員に配布した。（タオル，マスク他）
- ⑧周知事項：自分の身は自分で守る。

【感想】多摩川から離れているおり浸水リスクは極めて低い自治会であるが，台風時には70%が避難しており，自治会周知事項の「自分の身は自分で守る」が浸透していた。地震のリスクも考慮してか安否確認訓練や無線の配備がされていた。

（3）入間町1丁目自治会（0.1m～1m未満浸水地域）

- ①入間川流域に隣接？しているが，河川浚渫工事や入間川分水路バイパス工事のお陰で氾濫は無かった。
- ②道路のマンホールから水が噴出した事例があった。
- ③課題として，避難場所の充実，市との連携がある。
- ④無線機拡充配備をしている。

【感想】同自治会は高台に有り崖崩れ以外の浸水リスクは低いが，当日市との連絡が取れなかった対策や無線機拡充配備をしていた。

（4）調布市総合防災安全課

- ①台風19号襲来時は，調布市で初めて避難勧告を発令し，約6,000人が避難所に避難した。要配慮者の避難方法は，市で無料バスの運行により利用できるようにした。
- ②台風19号では，死亡した70%の方が高齢者であった。アンケートの結果，60歳以上の高齢者の50%が避難しない事が分かり課題となっている。
- ③車で避難途中死亡した人が半数を占めた。← 避難タイミングが遅い

（5）パネラー司会者 鈴木哲司

- ①非常持ち出し品としてAEDを加えるべきである。
- ②西部飛田給自治会は，安否確認訓練を継続した結果，黄色リボンの掲示が70%迄に向上した。
- ③避難所に避難する際，薬，水等必需品は個人で持参する。反省点
- ④鈴木
 - 災害時は日常の繋がりが大切。
 - 171の伝言ダイヤルを活用する。
 - 洪水時に命を守るリュックは浮くため効果的であるが，国交相認定の桜印が入ったライフジャケットの常備が望ましい。安価な物は浮かないため買わない事。

2. 「豪雨による河川災害の対策とノウハウ」講演

【講師】日本救急救命士協会会長 鈴木哲司・・・ポイントのみ記述

（1）全国で発生した水害報告に共通する事項

水害は事前情報により避難時間があるため，各種情報を入手し迅速に避難する。

（2）迅速な避難方法と注意点

- ①アンダーパス等で車が水没した場合の脱出法（実験結果）

- ガラスが割れなかった・・・ヘッドレスト，小銭を入れたビニール袋，スマートフォン，ビニール傘，車のキー
- ガラスが割れた・・・**脱出用ハンマー**（ポンチ・金槌・小型ポンチタイプの3種類）
- 脱出用ハンマーでもフロントガラスは割れなかった。**窓の四隅**が効率よく割れる。
- 脱出用ハンマーは，**シートベルトも切れる**ので推奨する。

②避難のポイント

- 川沿いなら速やかに高台へ直接避難
- 冠水道路の避難は避ける
- 暗闇の避難は避ける
- 避難は安全を第一に考える

(3) 災害時の心得

- ①危険箇所のチェック
- ②避難場所の確認
- ③家庭での防災，避難計画
- ④非常持ち出し品の整備
- ⑤非常時の連絡方法の徹底
- ⑥地域，職場，家族で災害時の役割分担と，全員での共有，定期的な訓練

(4) 自助，共助，公助

- ①阪神淡路大震災では，**自助が2割，共助が7割，官の助けは1割**しかなかった。
- ②向こう**三軒両隣**で共助
- ③**自治会の役割**を明確にしておく。

(5) 提言

自治会は，**地域でお互いに助け合う優れた共助の仕組み**で有り，共助の基礎となる。また，個人による**自助の充実が地域の防災力**を高め，有事には被害の軽減につながる。

3. 自動通話録音機

この装置は電話端子と電話機の間接続する事で，振り込め詐欺を防止する目的で調布市が**貸し出し**（実質貸与）する物で，講習会終了後受付で申請し借用した。

本装置は，電話受信時に発信側（相手）に対し「この電話は，**振り込め詐欺等の犯罪被害防止**のため，会話内容が録音されます。これから呼び出しますので，このままお待ち下さい」という警告メッセージを自動で出す。

- 1回の通話で30分録音可能
- 録音件数は210件
- ナンバーディスプレイ対応の電話機に接続して使用できる。



以上